

## 論文要旨

### 1. 金良宣(きむ やんそん・韓国)

#### 「日帝強占」期における芸術家と「親日派」の関係 ― 舞踏家・崔承喜を中心に ―

キーワード: 崔承喜(サイショウキ・チェスンヒ)、舞踊、親日派、崔承喜舞踊の再評価、ハン(恨)

#### 要旨:

1910 年から 1945 年までの 36 年間、韓国(当時は大韓帝国)は日本(同じく大日本帝国)によって併合され、植民地支配されていた。韓国では、その時代を「日帝強占」期と呼んでいる(日本では「韓国併合」等々)。植民地という厳しい状況にはあったが、同時に先進の文物が流入してくる時代でもあった。崔承喜(サイショウキ・チェスンヒ、1911～1969?)は、難しい時代状況のなかで自身の抱く夢の実現に邁進し、朝鮮人として初の世界的舞踊家となった。

この時代の崔承喜は、「内地」(日本)での活動を足掛かりに世界へ飛躍するという自由を獲得したが、いっぽう自身の舞踊に「日本舞踊」の要素を取り入れざるを得なかったり、日本軍の慰問公演に出かけなければならないという不自由さも強いられた。後者は崔承喜の自発的意志ではなかったが、これをもとに同胞(朝鮮人)からは「親日派」と見なされ、批判されるという悲哀も味わった(「親日派」は、当時の日本に協力的だった人々を意味し、韓国では否定的な表現)。

しかし崔承喜の活動は、韓国特有の感情とされる「ハン(恨)」が基盤を支えている、と思われる。崔承喜の芸術家としての「生」をハン(恨)の思いから読み解いて、「親日派・崔承喜」の再評価を試みたい。

### 2. カヴィンドラ・ガヤンギ・ジャヤセーカラ(スリランカ)

#### 「小学生に対する英語教育 ―スリランカと日本の比較―」

キーワード: スリランカと日本、小学校の英語教育、スリランカの教師へのアンケート、岐阜大学教員へのインタビュー、問題点と改善策

#### 要旨:

本稿は、スリランカと日本の小学校の英語教育をよりよくするという目的で執筆した。そのため両国の英語教育と小学校の歴史、また、それらの現状を調べた。その後、両国の小学校英語教育の問題点を明らかにし、改善方法を追究した。

スリランカは、1796 年にイギリスの植民地になり、それをきっかけに英語が広まったという歴史がある。スリランカの英語教育を調べるためにアンケートを作り、スリランカの英語教師 50 人を対象にした。そこで、児童数、授業時数、教師の実態、児童の実態、児童の一番不得意な技能、得意な技能、教具と設備、評価方法、小学校の英語教育をよくするための教師からの意見などを尋ねた。

日本では、明治時代に英語が広まった。現在、小学校 5 年生から外国語活動の授業の中で英語を学習している。日本の小学校英語教育の目標・教師・授業・教材と設備・評価などを調べるために、小学校を訪問したり、インターネットから情報を得たりした。また、小学校英語教育の問題点を知るために、岐阜大学教育学部英語教育講座の教授にインタビューを行った。

本稿の最終章では、両国の英語教育から互いに学ぶべきことについて考えた。

### 3. 鍾佩容(しょう はいよう・中国)

#### 「ハンカチ —中日ハンカチの使用現状を中心に—」

キーワード:ハンカチ、中日におけるハンカチの歴史、使用現状、中日比較、演劇や歌や映画とハンカチ

#### 要旨:

中国では、ハンカチの歴史が長く、多くの人々がハンカチを使用する時代があったが、現在ティッシュが普及しているため、ハンカチを使う人は非常に少ない。筆者は日本で留学するうちに、多くの日本人がハンカチを使っていることに気がついたことがきっかけで、ハンカチに興味を持つようになった。

本稿では中国と日本のハンカチの歴史を踏まえ、中国と日本でのハンカチの使用現状を中心に分析し、中国人がハンカチを使わない要因を探す。さらに、岐阜大学の中国人留学生を対象にアンケート調査を行い、彼らのハンカチの使用状況を調べた。中国にいる時ハンカチを使わなかった留学生のうち、日本に来てからハンカチを使うようになった学生がいるが、そのきっかけを尋ねた。また、中国と日本におけるハンカチが登場する演劇や歌や映画などとハンカチの使用とのつながりを調査した。最後に、筆者は中国でも日本のように多くの人々がハンカチを使うべきだと考えているため、中国で取ることができる対策を提言する。

### 4. ブイ・ティ・ビック・ユン(ベトナム)

#### 「日本におけるベトナム留学生の現状」

キーワード:ベトナム留学生、留学希望、ドンズー学校、EJU、岐阜大学、GVA

#### 要旨:

現在、ベトナムでは留学がブームである。欧米国は非常に人気があり、オーストラリアが1番、アメリカが2番である。アジア国は日本と中国を希望する学生が多い。近年、日越友好関係が強まり、ベトナム国内で日本留学経験者を要求することが増加しているため、留学希望対象国として日本と中国は逆転し、日本が3番になり、中国が4番になっている。

本論文は日本におけるベトナム留学生の現状を分析するための調査を行った。来日するには、留学希望者は日本語能力試験 N5 以上が必要である。日本への留学を斡旋している日本語学校としては、歴史あるドンズー学校が有名である。留学希望する学生はドンズー学校で1年間日本語と一般的な知識を学ぶ。その後、ドンズー学校は留学を希望する学生に日本の日本語学校を紹介する。日本語学校を卒業してから、日本の大学等に入学するために、留学生はEJU(日本留学試験)を受験しなければならない。

さらに、本論文は岐阜大学のベトナム留学生を中心に、インタビューを行った。インタビューからGVA(Gifu Vietnam Association)の誕生のきっかけとベトナム留学生の日本留学に関する意見や感想を知ることができた。

## 5. ハタイチャノック・プラソムスィー(タイ)

### 「日本とタイの特別支援教育 – 小学校における知的障がい者への教育を中心に –」

キーワード: 日本とタイの特別支援教育、特別支援学校、知的障がい、教員養成、クラス編成、学習内容、インタビュー調査

#### 要旨:

日本とタイは子どもに教育を受けさせる義務があり、障がい児も障がいを持たない子どもと同じように、小学校 6 年間・中学校 3 年間まで教育を受ける権利を持っている。

日本における特別支援教育は、明治時代から始まった。教育を受ける障がい児、特に知的障がい児は年々増加している状況である。また、日本では都道府県に特別支援学校を設置する義務がある。現在、特別支援学校の学校数は、全国で 1,096 校であり、在籍者数は 135,617 人である。さらに、特別支援学校教諭免許状を有する教員も徐々に増加している。

一方、2011 年の調査結果によると、タイにおける特別支援学校の学校数はわずか 43 校で、在籍者数は 13,098 人である。また、タイでは、教員免許状は定められているが、特別支援免許の存在はない。さらに、就学手順やクラス編成等は、日本と相違点が多く存在している。

本稿では、日本とタイの特別支援教育、特に小学校における知的障がい者への教育を中心に、共通点・相違点を明らかにするため、岐阜市立岐阜特別支援学校とタイのパンヤースクン特別支援学校にインタビューを行う。その上で、お互いが良い点を共有することを提言する。

## 6. アレックス・ボーデン(オーストラリア)

### 「和牛と WAGYU の行方 –なぜ WAGYU が日本で売られていないのか–」

キーワード: 和牛と WAGYU の定義、日豪関係、日豪自由貿易協定、プレミアム牛肉の国際市場

#### 要旨:

和牛は日本で生産された特別な牛肉であるが、最近に海外で生産されている「WAGYU」と呼ばれる牛肉も国際市場で出回っている。最も大きな WAGYU 生産国はオーストラリアである。オーストラリアの WAGYU は国際市場でかなり人気があるが、和牛の発祥地である日本の市場にはない。本稿では、なぜ日本市場で売られていないのかを説明する。

その理由は、オーストラリアなどで生産されている WAGYU は、日本に輸出する際「WAGYU」「和牛」として定義されないからである。WAGYU ブランドを失い、完全に別の食品(単なる牛肉)になるので、「WAGYU」という食品が日本で売られていないのである。

その上、牛肉に対して日本は高い関税があるため、日本で WAGYU を売る利益は失われる。近年、日豪自由貿易協定により関税が下がったが、まだ十分ではない。

WAGYU として定義できず、関税が高い日本より、もっと儲かる市場があるので、オーストラリアは日本市場ではなく、その儲かる市場に WAGYU を輸出するのである。

## 7. レ・ティ・トウイ・チャム(ベトナム)

### 「日本酒から見えてくる日本文化」

キーワード: 日本酒、日本酒の歴史、米と水、製造方法と種類、神道と日本酒、杜氏

#### 要旨:

日本酒は他の飲み物のような日常生活向けの飲み物だけではなく、日本の文化としてその長い歴史が世界中によく知られているものである。本稿ではそれを究明するために、日本酒の歴史、種類、製造方法、神道や年中行事の関わりを分析し、概観した。

日本酒は、その起源は米作りの歴史とともにあり、古代から現代にかけて長い歴史を持つものである。日本酒は米を主原料として発酵させて造られるのはもちろんだが、水などの他の原料も酒造りに重要な役割を担っている。現在日本酒は製造方法や原材料によって分類されるが、そのうち、精米歩合(米を削られた後残ってる部分の割合)によって一般的に 3 種類に分けられる。それは吟醸酒と純米酒と本醸造酒である。

昔から豊作を祈願するために神に米と神酒を捧げたことで、日本酒は神道と深く結びついている。また、人生の重要な節目や年中行事にも不可欠なものになっていることが分かった。

さらに、それらを踏まえて、日本酒やその製造方法を詳しく理解するために、岐阜県大垣市にある渡辺酒造醸を見学し、その杜氏にインタビューを行った。インタビューを通して、日本酒に対する興味を前より深く持つようになるとともに、実体験によって初めて理解できたこともあり、日本酒についての知識が身についた。